

No.2平成31年度改訂(H31.4)

章

項

目

特記事項

⑥検査及び後片付け

ア
ス
ベ
ス
ト
含
有
吹
付
け
材
の
除
去
工
事

⑦施工記録

1.施工調査等

ア
ス
ベ
ス
ト
含
有
保
温
材
の
除
去
工
事

2.施工計画書

3.安全衛生管理

ア
ス
ベ
ス
ト
含
有
成
形
板
の
除
去
工
事

4.除去処理工事

5.汚染物処分工事

ア
ス
ベ
ス
ト
含
有
成
形
板
の
除
去
工
事

6.検査及び後片付け

8.1.施工調査

ア
ス
ベ
ス
ト
含
有
成
形
板
の
除
去
工
事

2.施工計画書

(2) 官公署その他への手続き等
一般建築工事の手続きのほか、地方公共団体が定めている手続きを行う。

3.安全衛生管理

4.除去処理工事

5.検査及び後片付け

6.施工記録

仕上復旧特記仕様

1.危険防止

2.構台

3.工事表示板等

4.設備工事との取合い

5.総合図での調整

②仕上復旧工事

1.軽量鉄骨天井下地

2.せつこうボード
その他ボード
及び合板張り

(1) 除去作業が終了後、高性能真空掃除機で床などの清掃を行う。
(2) 監督職員立会いのうえ、除去が十分に行われたかを、目視により検査を行う。
(3) 養生用のプラスチックシートに付着した粉じんの再飛散を防止するために、シート全体にまんべんなく粉じん飛散抑制剤を散布する。
(4) 壁面等の養生用のプラスチックシートの撤去は、負圧・粉じんを十分に吸引、ろ過した時点又は粉じん飛散抑制剤吹付後、沈降した時点で行う。
なお、シートは、取り外して粉じん付着面を内側に折りたたみ、プラスチック袋に入れる。
(5) 養生を行っていない足場、仮設材を清掃した後に解体搬出する。
(6) 床養生用プラスチックシートは、粉じん付着面を内側に折りたたみ、プラスチック袋に入れる。
(7) 養生用のプラスチックシート等の廃棄物は、5.(2)により処理を行う。
(8) 後片付け終了後は、高性能真空掃除機で床等の清掃を行う。

(1) 施工記録報告書を作成し、監督員に提出する。
(2) 施工記録報告書は、下記事項により作成する。
(i) 施工計画書
(ii) 工事記録及び工事写真
(iii) 産業廃棄物処理記録
(iv) 施工調査等記録
(v) 作業者の作業記録、各種健康診断記録、安全衛生教育記録
作業者の作業記録、特殊健康診断記録は石綿測により40年間保存しなければならない。
(vi) その他必要事項

施工調査は、特記による。特記がなければ、次による。
(i) 処理工事に当たり、あらかじめ事前の施工調査を次の事項について行う。
調査結果は、図面により記録し、監督職員に提出する。
① アスベスト含有保温材等の使用部位の確認
② アスベスト含有保温材等の厚さの確認
③ 施工範囲と工事管理区分の確認
④ 廃棄物などの搬出方法
(ii) アスベスト粉じん濃度測定は6.1(ii)に準じて行う。

(1) 施工計画書
着工に先立ち、処理工事に伴うアスベスト粉じんの飛散防止対策を盛り込んだ施工計画書を施工調査等の結果に基づき作成し、監督職員の承認を受ける。
なお、施工計画書に記載すべき事項は、次のとおりとする。
① 工事概要
ア. 工事名称
イ. 工事場所
ウ. 工事期間
エ. 工事内容
オ. その他
② 管理組織
③ 安全衛生管理及び飛散防止対策
④ 使用用具、器具類、材料及び調合
⑤ 工事の流れ
⑥ 仮設計画（足場、養生）
⑦ 作業要領（作業計画図面を含む。）
⑧ 確認、検査方法
⑨ 工事工程表
⑩ その他必要事項

(1) 建物内部で除去作業を行う場合は、作業場所を他の場所を隔離する。
なお、作業場所において、閉閉部位（出入口、喚起孔、窓等）は閉とし、ガラスの破損箇所等で開となっている部分を、プラスチックシート等で塞ぐものとする。
(2) 建物外周部で除去作業を行う場合は、当該部分をプラスチックシート等で囲い、該部分をプラスチックシート等で囲い、周辺環境へのアスベスト飛散を防止する。
(3) 作業場所内では、除去に関する作業以外の作業は厳禁とする。
(4) 表示、掲示については「改修標柱」9.1.2(f)に基づいて行う。
(5) アスベスト保温材等の切断、穿孔、研磨等の作業に伴うものは「改修標柱」9.1.3(a)に基づき隔離を行う。なお、グローブバック方式を使用して該当除去部分を覆う場合も隔離と見なす。

アスベスト含有保温材等（煙突用断熱材は除く）の除去は可能なかぎり粉じん飛散抑制剤で十分に湿潤化した後、手ばらしで行うこと。
手ばらし以外の除去（グローブバック方式による除去は除く）の場合は、「改修標柱」9.1.3および「改修指針」9.1.3による。

(i) 除去したアスベスト含有保温材の処理方法は、「改修標柱」9.1.3(b) (2) および「改修指針」9.1.3(b) (2) により、密封処理する。
(ii) 施工区域内において、アスベスト含有保温材等の廃材を高所から移動する場合は、揚重機を使用して、アスベスト含有保温材等を高所より落下させないこと。
なお、アスベスト含有保温材等の保管、運搬、処分等については、「改修標柱」9.1.3 (c) 及び「改修指針」9.1.3 (c) による。

6.6に準じて行う。

施工調査は、特記による。特記がなければ、次による。
処理工事に当たり、あらかじめ事前の施工調査を次の事項について行う。
調査結果は、図面により記録し、監督職員に提出する。
(i) アスベスト含有成形板使用部位の確認
(ii) アスベスト含有成形板の種類、厚さ等の確認
(iii) アスベスト含有成形板使用数量の確認
(iv) 施工範囲と工事管理区分の確認
(v) 廃棄物等の搬出方法について

(1) 施工計画書
着工に先立ち、処理工事に伴うアスベスト粉じんの飛散防止対策を盛り込んだ施工計画書を施工調査等の結果に基づき作成し、監督職員の承認を受ける。
なお、施工計画書に記載すべき事項は、次のとおりとする。
① 工事概要
ア. 工事名称
イ. 工事場所
ウ. 工事期間
エ. 工事内容
オ. その他
② 管理組織
③ 安全衛生管理及び飛散防止対策
④ 使用用具、器具類、材料及び調合
⑤ 工事の流れ
⑥ 仮設計画（足場、養生）
⑦ 作業要領（作業計画図面を含む。）
⑧ 確認、検査方法
⑨ 工事工程表
⑩ その他必要事項

(1) 建物内部で除去作業を行う場合は閉閉部位（出入口、喚起孔、窓等）は閉とし、ガラスの破損箇所等で開となっている部分を、養生シート等で塞ぐものとする。
(2) 建物外周部で除去作業を行う場合は、当該部分を養生シート等で囲う。
(3) 施工区画入口に、「アスベスト含有成形板除去中、関係者以外の立ち入り禁止」を、作業場所の出入口に呼吸用保護具着用を掲示する。

(1) アスベスト含有成形板の除去
(i) 除去は、アスベストを含まない内装材及び外部建具等の撤去にさきがけて行う。
(ii) 除去は可能な限り破壊又は切断を伴わない方法で行うものとし、原則として、「手ばらし」とする。
(iii) 除去作業中は、原則として散水その他により、アスベスト含有成形板を常に湿潤な状態として作業を行う。
(2) アスベスト含有成形板の集積、運搬等
(i) 除去したアスベスト含有成形板の集積及び積み込みに当たっては、高所より投下しない等のほか、粉じんの飛散防止に努める。
(ii) 細かく粉砕されたアスベスト含有成形板は、湿潤化の上、丈夫なビニル袋に入れる等、飛散防止の措置を講じる。
(iii) 除去したアスベスト含有成形板を運搬するまでの間、現場内に保管する場合は、一定の保管場所を定め、一般の内装材と分別して保管するものとし、シートで覆う等、飛散防止の措置を講じる。また、保管場所には、アスベスト含有成形板の保管場所であることの表示を行う。
(iv) アスベスト含有成形板の運搬に当たっては、運搬車両の荷台全体をシート等で覆い飛散防止に努める。
(v) アスベスト含有成形板の撤去、集積、積込み及び保管等の処理が完了した場合は、速やかに監督職員に報告し、確実に処理されたことの確認を受ける。

(3) 除去物の処分等
(i) アスベスト含有成形板は、関係法等に従い適切に処分する。
(ii) 撤去されたアスベスト含有成形板の処分が完了した場合は、マニフェストを監督職員に提出し、処分が確実に行われたことの確認を受ける。
なお、マニフェストは、アスベスト含有成形板であることを明示する。

(1) 除去作業が終了後、アスベスト含有成形板の破片、破断粉および作業衣等に付着した粉じんが残存しないように、真空掃除機等により、清掃および片付けを十分に行う。
(2) 監督職員の立会いのうえ、除去が十分に行われたことを、目視により検査を行う。

(1) 施工記録報告書を作成し、監督職員に提出する。
(2) 施工記録報告書は、6.7により作成する。

3.吸音材

4.吹付け

5.木質繊維吹付け

6.塗装材料

7.塗装業者

材種

品質・規格

厚さ

・ロックウール吸音材

ロックウール吸音ボード1号（60K）

・25

・（ ）

・グラスウール吸音材

グラスウール吸音ボード2号32K

※25

ガラスクロス（JIS R3414-P-17A）無縫張

ガラスクロス張りグラスウール吸音ボード（910×1820）の取付け工法

ポロボロビレン及びプラスチックファスナー留め 4本/m程度以上

種別

色

彩

厚さ

・一般用

・（ ）

・着色

・原色

・10

・15

・20

・（ ）

※ホルムアルデヒドの放散量 F☆☆☆☆等級のもの・（ ）

種別

色

彩

厚さ

・一般用

・（ ）

・着色

・原色

・10

・15

・20

・（ ）

※ホルムアルデヒドの放散量 F☆☆☆☆等級のもの・（ ）

壁内の壁及び天井の塗装仕上材は、建築基準法に基づき防火材料の指定又は認定を受けたものとする。

(18.1.3)

塗料は、トルエン等の含有量が少ない規格品とする。

ホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆

・（ ）

・（一社）日本塗装工業会の会員

※監督員の承諾する塗装業者

除去工事作業の手順

除去工事作業の手順は「改修指針」図9.1.6による。

アスベスト除去写真
撮影要領

1 除去着工前の清掃

2 ビニール養生（床二重が分かる撮影・壁養生・機器養生等）

3 クリーンルームの撮影（設置状況、完了時）

4 負圧除塵装置撮影（フィルター確認状況を含む）

5 各種掲示板等の撮影

6 飛散抑制・防止剤噴霧施工時の写真

7 アスベスト除去時の撮影

8 袋詰め撮影

9 アスベスト除去後の確認時の撮影

10 飛散防止剤の吹付け時の撮影

11 産業廃棄物の処理状況の撮影（保管状況、数量確認、積み込み、搬出、運搬、処理場搬入、荷下し、数量確認、退場の各状況）

12 各指定段階の濃度測定時の撮影

13 使用材料、配合状況及び使用機器の状況

14 その他、監督員が指示する箇所

承認覧

工事名称

小長田団地（7棟）改修工事

日付

令和2年度

図面名称

アスベスト含有建材除去等工事特記仕様書（2）

縮尺

図番

A-06

株式会社エム・ピー・アイ 一級建築士事務所

1級建築士事務所登録

松尾 直也

第1-20757号

1級建築士登録

第223559号